

平成25年度2月の教育モニターからの教育情報(情報提供のみ)

月	住所	性	歳	テーマ及び情報内容	担当課
2	岐南町	男	60	<p>【命の教育】</p> <p>校区の住民のKさんは以前から、切り花や野菜の苗、水中の小動物等を積極的に学校に提供し、環境整備に大いに貢献していただいている。平成18年1月に「ここ北小で蛍を育ててみたらどうでしょう」と提案され、学校としての命の教育、環境教育の一環として始められた。Kさんは独学で調べられたり、各地の飼育団体を尋ねられたりして取り組まれた。その後、住民に呼びかけ「北小にホタルを飛ばす会」を結成され、翌年に蛍の飼育小屋を建て、夏には「ホタル観賞会」を実施された。さらに「全国海づくり大会」が開催されたおりに岐南町がサテライト会場として多くの方が観賞された。自分たちでもできたという事実と子どもたちの目の輝き、生き生きとした表情の素晴らしさを糧に現在も続けておられる。</p>	学校支援課
2	本巢市	男	60	<p>【教員OBが学校の授業を支援】</p> <p>2月初旬、仕事の関係で土貴野小学校を訪問したとき、玄関で知っている校長OBに会った。算数の授業の手伝いを終えて帰るところで、毎週くらい来ているということであった。</p> <p>本巢市教育委員会では、学校支援ボランティアを募集して、運動や学力補充、クラブなどの時間に活動してもらうようにしている。(4～5年前から)その流れのなかで、普段の授業にでも個人的に学校の要請に応えるようになった例であろう。</p> <p>日本巢郡で継続している退職校長会では、学校の声に積極的に応えていく方針を強調し、毎年開かれる現職校長と語る会でもアピールしている。このことが具現されている一例でもある。</p>	教育総務課
2	大野町	女	60	<p>【町内の各校・先生方の熱い姿勢に感謝～学警連・少年補導・学校評議員会等に参加して思う】</p> <p>地域の子どもたちに関わる諸行事に参加して感じたことを述べさせていただきたい。まず初めに学校の先生方がどのように生徒たちを見守り、指導・助言をされているか。早朝の登校状態から放課後の部活動、下校時の安全確認に至るまで、一般企業のような約束された休憩時間は全くないように思う。常に児童・生徒の動向に気を配られておられる。さらに生徒指導主事の先生方には全校生徒への対応、予防が取れるように情報を集約されている。ただ驚きと尊敬の念を抱くのみである。</p> <p>このような勤務状態や授業を拝見し、私なりに感じた点を上げたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の場・・・確かに公開授業ではいろいろと工夫されているが、小道具にとらわれすぎではないだろうか。話術、生徒に興味を抱かせる話し方等々、ベテランの先生から学ぶことも週単位でこのような場があればと思う。 ・情報交換の場・・・校内では十分に行われていると思うが、校外の人たちからの情報収集がなかなか取りにくい。各地域ごとでもいいので学期に1度くらいは住民を交えた場が設定されればと思います。道徳教育や教育週間等で実施されていますが、もっと身近な住民の声を得て、ほめることは社会全体でほめたたえ・対処すべき点は互いに協力し合って実施できるような場があればと考える。 ・授業時間数・・・軽減できないだろうか。地域には教員免許を持っているベテランが溢れています。「総合的な学習」や「道徳」「土曜日授業」などの工夫の余地はあると思うが・・・。もう一点、町内の中学校では高等学校との連携も盛んに実施されており、将来に向けた進路指導がうかがえる。それも高校職員だけではなく、高校生が直接中学生に指導・助言をしており、中学生もとても楽しみ深く興味をもって授業を受けている。高校の卒業研究成果の発表会にも参加し、将来への心構えの一助にしているようだ。さらに小学校との連携についても、今以上に生徒中心で実施できるよう、校長先生段階で話し合われているようである。とても嬉しく思っている。地域行事との繋がりがりやボランティア参加も含めて、検討されることを切に望んでいる。 	学校支援課 教職員課
2	飛騨市	男	50	<p>【冬季パラリンピック ソチ大会について】</p> <p>飛騨神岡高校 スキー部3年 岩本啓吾君が、この度パラリンピック出場のため大会前の合宿地に向け出発した。神岡商工会議所を中心に後援会を立ちあげ、激励の懸垂幕やポスターを掲げ、激励メッセージの募集と遠征費用の募金をスタートさせた。貴重な経験なので岩本君には体調を整え、思いっきり楽しんできてほしい。</p>	教育総務課

2	飛騨市	男	50	<p>【飛騨神岡高校と地域との連携について】</p> <p>町の中心部から離れているという立地条件から、以前は地域住民との関わりがなかなか難しいのではないかと考えていたが、近年は町のポケットパークの展示コーナーで定期的に生徒の作品を紹介したり、小中学校へあいさつ運動に訪問したり、着実に地域に根付いた活動を展開していると感じている。中でも昨年の「オープン飛騨神」というイベントは地域の方々からも好評価で地元の高校の頑張りを十分アピールできた活動だったと思った。</p> <p>また、「飛騨神岡獅子まつり」という地域のイベントにも今年度から吹奏楽部が参加され、地元の高校として住民の理解協力を深めようと努力する姿がうかがえ、非常にうれしいことだと感じている。</p>	教育総務課
2	飛騨市	男	50	<p>【神岡小学校 3年生町歩きについて】</p> <p>ふるさとの宝物を探そうという観点から、小学校3年生が町歩きガイドについて町の中を散策した。私もガイドをしているので数名の子供たちとともに活動しましたが、目を輝かせて話に聞き入る姿には本当にうれしくなった。よく知っているつもりの方たちにも、実は知らないことや、気づかなかったことがいっぱい町をよく知ることで町を好きになり、郷土愛を育むのだということを改めて実感した。</p> <p>その後、保護者よりおりにふれ、お礼と子供がとても楽しかったと喜んでいたというお話をお聞きした。今後もこのような学びの場を継続していただけることを願っている。</p>	学校支援課
2	飛騨市	男	50	<p>【飛騨神岡高校 ロボット部の活動について】</p> <p>文化祭においてロボット部のブースでは誰もが足をとめるくらい超高校生レベルのロボットにはかなり興味をそえられる。制作活動や大会への出場などの間をぬって、小学校への出張講座なども行っており、地元の子供たちに夢を与え、かつ飛騨神岡高校とを結びつけるとても良い活動ではないかと思う。地域から高校へ更なる支援を得るために、ロボット部の存在は極めて大きいと思う。</p>	学校支援課
2	飛騨市	男	50	<p>【飛騨神岡高校 文芸部の活動について】</p> <p>毎年有志で松山の俳句甲子園大会に出場していたが、昨年より文芸部が創部され、さらに積極的な創作活動を行っている。日頃より全国各地の大会に応募し、数々の賞を受賞している。例年3月には、神奈川大学全国高校生俳句大会の授与式へ出席し、翌日には開成高校で行われる句会に招待されるなど県外人にも存在感を示している。</p> <p>第27回感動作文コンクールなど作文部門や全国短歌甲子園など短歌部門においても活躍はめざましい。講師の先生の貢献によるところはかなり大きい。</p>	社会 学校 教育 支援 課 文 化 課
2	御嵩町	男	60	<p>【御嵩町こどもの笑顔づくり条例制定について】</p> <p>先に(8月27日付)いじめ防止条例についてで報告した条例案については7回の検討委員会を経て別添のとおり“御嵩町こどもの笑顔づくり条例”(案)として策定し議会の承認を求める運びとなった。</p> <p>①条例案は、いじめ防止対策推進法に基づき町民あげて取り組む必要性を鑑み“笑顔づくり”とし、②軽微な事案でも認知したときは町長報告、③町立学校のみならず県立(高校2校)組合立(中学校1校)に協力を求める等が規定されている。</p>	学校支援課
2	関市	女	60	<p>【迷惑行為】</p> <p>本年度は、心ない不審な電話や手紙(メモ)のために、市内のいくつかの学校が大変な迷惑がかかり対応に追われた。結果的に大事に至らず、胸をなで下ろしたわけだが、犯人が明確になったわけではなく、解決したとは聞いていない。子どもの安全第一に帰校させたり、休校にしたり運動会を延期したり・・・学校は大変だったと思う。こうした事件は、学校への不信、何かにストレスを感じている人の行為と予想するが、この事件をうけてどのような対策がとられたのだろう。学校や教育委員会の対応策が知りたいところだ。</p>	教育総務課

2	関市	女	60	<p>【いじめ】</p> <p>これほど騒がれ、問題視されていてもなかなかなくならない「いじめ」。先だっても特別支援学級の児童に対する「いじめ」が発覚し、校内で解決に向けて対応がなされたと聞きました。ところが対応の中味が、該当学年、関係者だけで内々に行われ、全職員や全校児童には知らされていないようでした。「いじめ」が発覚したら、早急に全職員・全校児童に問題を伝え、共に考え、解決しようと共通理解することが肝心。こうした解決方法が、学校によって差(校長によって?)がみられ、いまだ隠ぺい体質が残っていると聞くのは残念なことである。</p> <p>起こったことはやむを得ないので、それに対する誠意のある対応をしっかりとすべきではないかと思う。</p>	学校支援課
2	山県市	男	60	<p>【山県市小中学校の活動について(主にコラボレーター活動)】</p> <p>学校コラボレーター通信の内容を紹介する。</p> <p>17号 1:学校コラボレーター・生涯学習リーダー合同研修会 2:地域の歴史探検(高富小) 3:野外学習でのうどんづくり(美山小) 4:『みどりの祭り』に参加(伊良良北小、大桑小、富岡小、高富中)</p> <p>18号 1:第2回学校コラボレーター研修会 2:岐阜県地域コーディネーター研修会(山県市の実践発表) 3:県教育長表彰受賞(特色ある事業) 4:地域とともに歩む多彩な学校の取組(梅原小、大桑小、桜尾小、美山小、美山中) 5:学校を支援するコラボ活動 うどんづくり 草刈り作業 登山の支援 6:視察対応(石川県かほく市教委)</p> <p>19号 1:しっぽの会の取り組み 2:図書館ボランティア 美山小 3:食育 豆腐づくり:桜尾小 みそづくり:大桑小</p>	社会教育文化課
2	各務原市	男	60	<p>【教員の不祥事】</p> <p>昨年末に我が町各務原市のS中学校で不祥事が起きてしまったこと、担当モニターとしても心苦しさを感している。事の重大さは感じつつもS中は荒れた時代を払拭し、地域からも信頼され、市内でも大規模校でありながら落ち着いた学校として評価されてきた学校である。これまでの先輩の実績まで否定されるわけではないが、事件後の後遺症は大きいようだ。生徒、保護者からの信頼度は極めて低くなり、学校も荒れの様相を呈していると聞く。採点業務に至っては確認に次ぐ確認でかなり手間も増えたようで、職員の負担増大、部活など他の指導に支障が出てきた。またS中校区内のある地域においては校区の変更を要求しているとのうわさもある。</p> <p>おそらく県教委や各務原市教委からきびしく指導されているだろうが、S中職員の奮起に期待するしかないのだろうか。</p>	教職員課
2	白川町	男	60	<p>【小規模校の教育充実に向けて】</p> <p><県でご理解いただけていると感じること></p> <ul style="list-style-type: none"> * 白川町の地域や児童生徒の実情・現状等をふまえ、特別支援学級の設置には大変配慮いただけていること。 * 都市部勤務の中堅の先生方が町内の小規模学校へ訪問されたと聞きました。正式な事業の名称は知りませんが、県でへき地小規模校への中堅教員派遣へ向けた具体的な取り組みを行っていただけたこと。 <p><学校が大変だと感じること></p> <ul style="list-style-type: none"> * 「教員は現場で育つ・育てよ」はその通りであり、町内の各学校でも校内はもちろん教育委員会の取り組みでも大変努力されていると思う。 * 小規模単式学級の学校においては、1学年複数学級の学校とは違い、指導する側、受ける側双方にとっても大変な労力と難しさがあると思う。(同学年複数学級の学校では、学年集団の中で、同僚からや組織的・実践的な学びの機会が日常的に多い) * せっかくその学校で育った(育てられた)講師が、採用試験に合格すると他校へ異動となる。正規採用として同一校に勤務できないものだろうか。 * 同じ新卒の先生でも、講師と正規採用の先生とは、校外研修のための支援が同等ではない。同じ状況で同じ職務にあたるのに・・・と思う。 * 産休・育児休業は大切にされなければならないことは大前提で、へき地小規模校では、関係機関や学校の努力にもかかわらず、補充教員確保は大変難しいと思う。また、中には第1子、第2子と継続の場合もあり、その間講師継続であり、講師が入り替わることもあるようだ。産休から育児休業は、最低3年間は継続する。講師でつながなくてもよい方法はないだろうか。(育児退職以外に) 	教職員課

2	下呂市	女	50	<p>【小規模校の実態について】</p> <p>一昨年から昨年まで、下呂市内の小中学校における学校統合の在り方を検討する委員会のメンバーとして活動する機会があった。検討結果は、報告書としてまとめられ、その内容は小学校においては「1学年1学級以上の規模が望ましい」。中学校においては「1学年で複数以上の学級編成されることが望ましい」という内容である。またその手法については、純粋に教育的な観点に立って考慮されるべきだが、地域住民の支持が得られるものではなくてはならないといった内容だった。</p> <p>その報告書は、教育委員会と下呂市の方針となった訳だが、いざ実施させようとなると、なかなか難しい面があるようだ。</p> <p>私が思うに、確かに小学校は、地域の精神的な支柱である歴史的な側面を無視することはできない。一人の教員がなんでも教えることができる。しかし、中学校の場合、集団生活や、免許外授業のことを考えると、小学校よりは行政の合理的な判断が必要ではないかと考える。そうした冷静で合理的な判断材料とするためであるのなら、小規模中学校、特に保護者でない地域住民の意向で統合が進んでいない学校については、県教委として実態を把握され、必要に応じて学校規模別学力テストの数値公表をする。といった取り組みも必要ではないかと思っている。特にこうしてもらいたい、という希望ではないが、教育委員会から市長さんに主導権が移った場合、地域住民の声を第一にする方になると、県内に「全校生徒数10名以下」の中学校在、いくつもできてしまうことにならないか？心配しているところである。</p>	教職員課
---	-----	---	----	---	------